

目 次

まえがき

I 暴力の根源を考える

- 1 『構造的暴力と平和』 ヨハン・ガルトゥング著 002
- 2 「暴力について」 ハンナ・アーレント著 006
- 3 『近代とホロコースト』 ジークムント・パウマン著 010
- 4 『新訂版 戦略爆撃の思想』 前田哲男著 014

II 経験としての植民地と戦争

- 5 『シベリア出兵の史的研究』 細谷千博著 016
 - 6 『レイテ戦記』 大岡昇平著 020
 - 7 『共同研究 日本軍慰安婦』 吉見義明, 林博史編著 024
 - 8 『ヒロシマ・ノート』 大江健三郎著 028
 - 9 『朝鮮人BC級戦犯の記録』 内海愛子著 032
 - 10 『望郷と海』 石原吉郎著 034
 - 11 『女たちのアジア』 松井やより著 036
 - 12 『戦争責任』 家永三郎著 038
- Column I 世界戦争は、なぜ二度起きたのか——戦間期の教訓に学ぶ 040
- Column II 現代戦争の理論——これまでの戦争、これからの戦争 046

Ⅲ グローバル化と構造的暴力

- 13 『インディアスの破壊についての簡潔な報告』 ラス・カサス著 052
14 『辺境から眺める』 テッサ・モーリス＝鈴木著 054
15 『バナナと日本人』 鶴見良行著 056
16 『地に呪われたる者』 フランツ・ファノン著 060
17 『ラテンアメリカにおける従属と発展』 フェルナンド・エンリケ・カルドーゾ, エンソ・ファレット著 064
18 『なぜ世界の半分が飢えるのか』 スーザン・ジョージ著 066
Column III 『1984年』——グローバルな全体主義と暴力 070

Ⅳ 内戦と地域紛争の現実

- 19 『未開の戦争, 現代の戦争』 栗本英世著 072
20 『現代アフリカの紛争と国家』 武内進一著 074
21 『ナショナリズムと宗教』 中島岳志著 076
22 『アチエの声』 佐伯奈津子著 078
23 『知ってほしいアフガニスタン』 レシャード・カレッド著 080
24 『ヨーロッパ新右翼』 山口定, 高橋進編 082
25 『宗教の復讐』 ジル・ケベル著 084
26 『テロリズム』 チャールズ・タウンゼンド著 086
27 『紛争と難民 緒方貞子の回想』 緒方貞子著 090
28 『「水」戦争の世紀』 モード・バーロウ, トニー・クラーク著 092
Column IV 冷戦後のアメリカの「戦争」 094

V 情報メディアと文化的暴力

- 29 『敵の顔』 サム・キーン著 098
30 『オリエンタリズム』 エドワード・W. サイド著 100
31 『ドキュメント 戦争広告代理店』 高木徹著 104

VI 日米安保と沖縄

- 32 『安保条約の成立』 豊下楢彦著 106
33 『沖縄「自立」への道を求めて』 宮里政玄ほか編著 110
34 『沖縄歴史物語』 伊波普猷著 114
35 『帝国アメリカと日本』 チャルマーズ・ジョンソン著 116

VII 日本国憲法と平和主義

- 36 『戦争放棄と平和的生存権』 深瀬忠一著 118
37 『要石：沖縄と憲法9条』 C. ダグラス・ラミス著 122
38 『戦後日本の思想』 久野収ほか著 124
39 『世直しの倫理と論理』 小田実著 128
40 『永遠の不服従のために』 辺見庸著 132
Column V 日本平和学会の40年——一創立会員の回想 134
Column VI 世界の平和学 138

VIII 格闘としての平和思想

- 41 『平和の政治思想史』 千葉眞編著 140
- 42 『永遠平和のために』 カント著 142
- 43 『人権について』 ジョン・ロールズほか著 146
- 44 『正しい戦争と不正な戦争』 マイケル・ウォルツァー著 150
- 45 『スタンレー・ホフマン国際政治論集』 スタンレー・ホフマン著 154
- 46 『国際政治』 モーゲンソー著 158

IX 世界秩序と平和構築

- 47 『国際社会論』 ヘドリー・ブル著 162
- 48 『国際安全保障論』 吉川元著 166
- 49 『人道的介入』 最上敏樹著 170
- 50 『地域から平和をきずく』 池尾靖志ほか著 174
- Column VII 「平和のリアリズム」 再考 178

X 国際協力の新しい在り方

- 51 『なぜ遠くの貧しい人への義務があるのか』 トマス・ポグゲ著 182
- 52 『第三世界の農村開発』 ロバート・チェンバース著 186
- 53 『市民・政府・NGO』 ジョン・フリードマン著 188
- Column VIII 国際NGOの可能性と困難 192

XI 核軍縮とその可能性

- 54 『新版 軍縮の政治学』 坂本義和著 196
55 『核軍縮と世界平和』 黒澤満著 200
56 『非核兵器地帯』 梅林宏道著 202

XII 近代テクノロジーと平和

- 57 『新装版 苦海浄土』 石牟礼道子著 204
58 『〈新訂増補版〉封印されたヒロシマ・ナガサキ』 高橋博子著 208
59 『新版 原子力の社会史』 吉岡斉著 212
60 『危険社会』 ウルリヒ・ベック著 216
Column IX 「3.11」を考える 220

XIII 新しい世界／文明のために

- 61 『〔新訳〕大転換』 カール・ポラニー著 226
62 『真の独立への道』 M. K. ガーンディー著 230
63 『アース・デモクラシー』 ヴァンダナ・シヴァ著 232
64 『グローバル時代のシティズンシップ』 ジェラード・デランティ著 236
65 『地中海』 フェルナン・ブローデル著 240
66 『聖杯と剣』 リーアン・アイスラー著 244
67 『東北アジア共同の家』 和田春樹著 248

XIV 日常からの平和構築

- 68 『市民の反抗』 H. D. ソロー著 252
69 『エネルギーと公正』 イヴァン・イリッチ著 256
70 『在日外国人 第三版』 田中宏著 260
71 『シティズンシップ教育論』 バーナード・クリック著 262
72 『被抑圧者の演劇』 アウグスト・ボアール著 264
73 『解放の美学』 富山妙子著 266
74 『オルレアンのうわさ』 エドガール・モラン著 268
75 『ケアの社会学』 上野千鶴子著 270
Column X 「平和学」を学ぶために 274

あとがき